



「与えられた時間」と受け止めるか、「失った時間」と受け止めるか

校長 神田 哲

本日終業式を迎えることができました。授業日数50日を超える臨時休校におけるオンライン学習支援から分散登校、一斉登校午前授業と決して満足のいく教育活動を実施することはできませんでした。その様な状況下で一昨年前から進めていた「ICT教育の充実」により、できうる限りのオンライン学習支援を行うことができたと自負しております。



本年度から新学習指導要領が小学校全面実施、来年度から中学校全面実施されます。その中で目指す資質・能力として「**予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくか**という目的を自ら考え、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手のなる力を身につけられるようにすることが重要である」とされています。4月からのオンライン学習支援を続ける中で、画面越しでしか見ることができなかつた子どもたちの学びの姿を目にしなが、この文章をよく思い出していました。コロナ禍というまさに予測困難な社会の変化に私たちはいかに主体的に関わることができるかを問われています。自分の感性を生かし、可能性を發揮し、未来のよりよい社会と自らの人生の創り手となることを強く感じています。そして、子どもたちにはコロナ禍においても、学校だけでなく家庭やグローバル社会を通して学びの継続を図ることで感性を磨き、可能性を広げてほしいと願っています。

中学部教員が登校が始まった授業の最初で生徒に投げかけていました。

「与えられた時間」と受け止めるか、「失った時間」と受け止めるか

「この時間を自ら考え、行動できるかどうか」が問われている

コロナ禍という予測困難であった社会の変化に対して、私たち大人が主体的に関わり、「自ら考え、行動すること」を子どもたちに示すことが大切だと思います。

2週間という短い夏休みとなりました。日本国内への帰省も再入国を考えると困難であろうと思います。子どもたちにとって、夏休みも「与えられた時間」として家庭でしかできない活動や学びを通して感性を磨き、可能性を広げる時間にしてほしいと願っています。



子どもたち一人一人への机間指導はオンライン学習支援ではできません。



2年算数 ものさしを使った「長さ」の学習です。教室で実物に触れながら学びを深めています。



E C (English Communication) では、対面でのコミュニケーションを大切にしています。



4年図画工作科の学習後の手洗いの様子です。たまたま見かけました。子どもたちだけでフィジカルディスタンスを保って、一人ずつ順番に手洗いをしていました。自ら考え、行動しています。

子どもたちにとっては今までにない学習スタイルで戸惑いが多く、学習がなかなか進まなかったと思います。特に小学部1年生は全く学校経験がない中でオンラインによる学校教育の開始です。3ヶ月間、本当にがんばって学習を継続してくれたと思います。保護者の皆様には学年に応じてお子様の学習への支援を行っていただきました。保護者の皆様のご支援、ご協力には感謝しかございません。JSKLに関わっていただいている全ての方々に感謝をしながら、1学期終業式を迎え、そして、8月24日2学期からは、さらに充実した学校生活となるよう教職員一同、努力して参りたいと思います。